



五行歌で
四季をうたう

こもろ五行歌の会

〈五行歌とは〉
思ったことをそのままのこと
ばで、五行に表す新しい形式
の歌。全音数や季語などの制
限はありません。

※写真撮影は
会員の倉本妙子さん



前田 たま

風が血となり
腹の中を駆け巡っているような
鯉のぼり
大空に
生き生きと泳ぐ

「柱のきずは おとしの
五月五日の せいくらべ」

江戸時代に決められた「五
節句」の一つ、端午の節句は
男の子の節句です。鯉のぼり
を上げたり鎧や兜を飾り、ち
まきや柏餅を食べて男の子が
元気に成長することを願いま
す。また、「こどもの日」の
祝日でもあり、日本各地で子
どもたちが活躍するお祭りも
行われます。

あちらこちらに鯉のぼりが
泳ぐのを見ると、にぎやかで
うれしい気分になります。最
最近では子どもたちの声を外
で聞かれなくなり寂しい思い
がします。家の中でゲームを
したり、いろいろな習い事で
忙しいのでしょうか。子ども
たちには、将来、世間の荒波
に揉まれても耐えられるよう
な、心身ともにたくましい人
になってほしいものです。
この時期は、農作業が忙し
くなる頃でもあり、家族みん
なで汗を流し、家族の一員と
してお手伝いがんばる子ど
もを育てていけるといいです
ね。やがて地域の担い手とな
ることを期待しつつ…。

編集委員 前田 和子